

多文化共生研究所 主催

第4回 ランチセミナー



「祈りか供犠か？カナダ・クリー族のサンダンス儀礼」
谷口智子(ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻准教授)

カナダ北東部ホールレイク居留地には、現在600名ほどの先住民族クリー族が住んでいます。伝統のサンダンス儀礼では、自らの身体の一部を傷つけるピアッシングが行われます。これは「苦行」か「祈り」か、または現代に残る「人身供犠」なのでしょうか。居留地の現実も含め、フィールドワークの成果を話します。

お気軽にお越しください。



日時

2017年6月29日(木) H棟003教室

12:05~12:50 (30分前から開場、食事可)

飲食自由！お弁当を食べながら、参加してみませんか？

愛知県立大学多文化共生研究所ランチセミナー(第4回)

祈りか供犠か？

—カナダ先住民クリー族のサンダンス儀礼—

愛知県立大学外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻
谷口智子

はじめに

発表者は2016年8月4—8日までのサンダンス儀礼に参加し、前後の準備期間を合わせて約2週間のフィールドワークを行った。場所はカナダ、サスカチュワン州ホールレイク居留地である。サンダンスの起源は約2300年前、ラコタ族にWhite Buffalo Calf Woman(白いバッファローの仔の女)によって7つの儀式の1つとして伝えられ、北米大陸の広い範囲の先住民族に伝わり、クリー族にも伝わった。

カナダや北米先住民の世界観は、東西南北の四方向以外、天と大地と地下に分かれている。これらは聖なる七方向である。人や動植物が住む世界の中心に天地を貫く中心軸(Axis Mundi)があり、それが天の創造主、大いなる神秘や、大地と繋がる垂直軸とすれば、水平に東西南北がある。中心軸の周りにサークルを作る。それがティピ(平原インディアンのテント)の真ん中に作られる石で丸く囲んだ竈になる。サンダンスの場合は、サンダンスの前夜祭 Tree Day の午後、木(白樺の木)を切り倒してきて、会場になる広場に皆で運び込んで深い穴を掘って埋め立てるが、一年間維持されるその神木は、人々の祈りの対象として、天の創造主に願いを届ける媒体になる。

諏訪大社の御柱祭のように柱を立てる祭であるサンダンス(男性儀礼)には、宗教現象として特徴的な要素が幾つかあるが、それは以下の三つに集約できる。中心軸を立てること、祈り(苦行)、人身供犠である。いずれも主要な特徴であるので、サンダンス儀礼の全体の構造を、時間の流れを追って、本発表では説明することにした。

1. サンダンス儀礼の準備(8月3日)

- ① 結界作り—7方向の世界観と7色の意味—
- ② Tree Day—中心軸を建てる—
- ③ 円形の結界作りと東西南北の門
- ④ 晚餐

2. 4日間のサンダンス儀礼(8月4—8日)

- ① 4日間の断食断水(祈りか供犠か)
- ② パイプ・セレモニー
- ③ スウェット・ロッジ
- ④ 癒しの日(3日目)

- ⑤ スピリチュアル・ネームの名付けの儀式
- ⑥ ダンサーとして参加(4 日目)
- ⑦ 破壇の儀式と共食

3. サンダンス儀礼の特質(祈りと自己犠牲)

- ① 自己犠牲(ピアッシングと人肉の捧げもの)
- ② 男性のイニシエーション(ピアッシング)
- ③ フレッシュ・オフアリング(人肉の捧げもの)

終わりに

クリー族のサンダンス儀礼の現代的な文脈で位置づけると、「異文化に開かれたクリー族の伝統の再創造」といえよう。クリー族は、ラコタ族に由来するサンダンスの 19 代目正統継承者を始め、数人のメディスンマン達が協議して、伝統に異分子を入れるか検討を重ねた結果、2 年前から日本人参加者を受け入れてきた。彼らは伝統をオープンにして、異文化である他者を巻き込み、自らの伝統を再創造しようとしている。本発表ではサンダンスという儀礼を、観察者・研究者と体験者・ダンサーという二重の視点から、その意味世界を理解し、分析し、発表した。その特徴は、サンダンス中に見られる創造主や先祖に捧げるピアッシングやフレッシュ・オフアリングなどの自己犠牲は、祈りなのか？ 供犠なのか？ という解釈の違いに現れる。我々のように異世界からやってくる「外側」の人間の視点では、サンダンスにおけるそれらの行為は自己犠牲、つまり「供犠」にみえる。しかしながら、サンダンスのダンサー当事者の「内側」の視点では、それらの行為は「祈り」そのものなのである。この「祈りか？ 供犠か？」の解釈の違いは、内側と外側の人間の解釈の違いであるが、どちらかが正しいというわけではなく、どちらもあるだろう。それが参与観察者であり、ダンサーでもある両方の視点を持つ私が至った結論である。同じものを見ても、視点の違いで解釈は異なるが、どちらか一方だけが正しいというわけでもない。解釈の「正統性」の問題に関わるが、むしろ解釈の多様性がある方が、内包される宗教的意味世界の豊穡性があるのではないかと筆者は結論付けた。